

上海モーターショーから 環境ビジネスの展望①

橋本アルミ（株） 橋本健一郎氏

上海UMC有限公司 中村創一郎対談

世界恐慌の影響で世界各国で収縮、出展中止を余儀なくされているモーターショー。しかし、こと中国、特に上海では勝手がちがうようだ。今回日本から上海入りした橋本アルミ、橋本健一郎氏が上海でレアメタルビジネスを手掛ける上海UMCの中村創一郎氏に上海モーターショーの現場から環境ビジネス（メタル・レアメタルビジネス）の動向をうかがった

橋本（以下H）

みなさん承知のとおり現在、世界不況の影響で中国も1-3月期のGDPが6.1%と昨年の二桁成長からの後退を余儀なくされていますが、きくところによると上海は少しちがうようですが？

中村氏（以下N）

私もそのように見ておりましたが、先週（4月26日）上海市統計局の発表がありまして、決して楽観的な状況ではありません。上海市統計局の最新公布データでは、上海市は第1四半期に生産総値は3150.47億元となり、08年同時期と比べて3.1%の増大となりました。増幅は昨年同時期に比べて8.43パーセント下落し、全国の第1四半期の同時期と比べて6.1%よりも低い値となりました。

第三次産業が上海GDPの大多数を占め今回は8割を上回り、60.1%まで増加しました。増加額は1893.80億元、同時期と比べて13.1%の増加となりました。中でも金融業の増加額が大きく、昨年から26%増大しました。金融危機の影響を受け、上海市の第2次産業の輸出入は低調しており、同時期と比べて8.1%下がっています。輸出入貿易総量の552.1億ドル、26.3%の下落となっております。

全国でも上海ほど三次産業が発達している地域はなく、金融危機の影響をもっとも受けない地域にもかかわらず、今回のような結果となったのは、他地域のGDP統計の集め方に問題があるように感じております。上海地域のみは先進国といってもよく、非常に精度の優れた統計を取った結果ではないでしょうか。

ところで日本は現在どんな状態でしょうか？

H それでもこの状況でプラス成長はすごい！
中国がうらやましいです（笑）

09年の日本のGDPの予測はOECDの予測ではマイナス6.6%と戦後最悪との予測がされています。

政府は景気対策をうってるようですがもともと日本は外需拡大で成長してきたので内需が若干上向いてもとても日本経済全体を支える規模ではないです

日本は少子高齢化で自動車を含む一般消費財に関しては内需はほぼ期待薄で

日本のGDPの3倍消費するアメリカと人口13億の中国に期待することになるのですが

この上海モーターショーの活況ぶりを見る限り大いに期待できそうですが実際は

中国の自動車の販売はどんな状況ですか？

N 99年200万台だった中国新車販売台数が08年までの10年間で983万台と約5倍に増えました。さらに09年1-3月では米市場を抜いて世界一となりました。

ちなみに3月の米自動車販売はマイナス37%の87万台です。



橋本健一郎氏



中村創一郎氏

■ それはすごい遂に世界一のアメリカを抜きましたか！アメリカが現在BIG3問題を抱えていることやデトロイトや東京モーターショーが収縮したのとは正反対ですね！

上海モーターショーで感じたのはまず先進国と違って家族連れがとて多い、まるで家を買うような感じで家族で来ている。

そして中国の自動車メーカーもどんどん出てきている。現在の15社を10社まで統合させて合理化を進めるそうですが、これだけ競争が進めば中間層の自動車所有率が上がるのも時間の問題ですね！

■ N 日本はどんな状況ですか？

■ またまた中国がうらやましい(笑)。半面多いに期待してます。

■ 07年の世界自動車販売数が6500万台、そのうち約55%を日米欧で販売しています。

■ 09年の同予測はマイナス25%の900万台減と中国一國分の台数の減少が見込まれている。また日本メーカー全体で2200万台生産していますが半分の1100万台が海外、残り半分が日本国内で生産していますがさらに500万台が輸出用です。つまり7割が外需で成り立っています。

故銅市況 海外相場反発も国内採算は建値下回り弱含み推移 「中国向け雑線・込黄銅は上海暴落で2万円下げ含み」

29日入電の海外相場は続落となったものの、30日入電は米国株高などを背景にLME・NY銅相場ともに反発した。為替は大幅に円安方向へ戻したものの、それでも国内採算値は現行建値より2万円下回る水準となっていることから、祝日明け30日の故銅市況は弱含みで推移している。

29日から30日入電のLME銅相場は2日間で75ドル上昇し4,350ドル、NY銅相場は0.40セント上昇し、201.00セントとなった。為替はTTSが前日比1.22円、円安ドル高の98.78円、NYカーブは変わらず、国内採算値は6,000円高の47万4,700円となり、現行建値水準を2万1,300円下回っている。

為替動向としては『東京外国為替市場の円相場は、29日の米国株値が上昇したことから、投資家のリスク許容度が改善するとの見方から円売り・ドル買いが優勢となり前日比1.67円、円安・ドル高の97.54-57円に推移した(銀行筋)』

大手問屋の市中買値について、足元の建値計算は依然として2万円安の弱含みが続いているが、「ナイ物高なのであまり安くは拾えない」や「状

この数字を見る限りバブルがはじけたアメリカの消費が落ち込んで今いかに世界が中国に期待しているかわかるでしょ。落ち込んだ分をすぐに穴埋めできるのは金融がアメリカほど痛んでいない中国しかないです。

この数字を見る限りでは日本にとって今後も中国はますます重要なパートナーになっていきますね。(続報)

橋本健一郎、橋本アルミ(株)専務取締役、非鉄金属の中国貿易が今年で16年日、日本の非鉄業界での中国貿易では草分け的存在。主に提携先がある広州へ非鉄金属の輸出を行っている。2004年より創業76年になる老舗問屋 橋本金属(株)へ出向、現在は銅を含めた非鉄金属資源のグローバルリサイクルシステムの構築を行っている。

中村創一郎、上海UMC貿易有限公司、総経理 大学時代に北京へ留学し中国との関わりを持つ。有限会社UMCへ入社後はITを駆使した販売活動を行い、先進的な販売方法を確立。2005年より上海へ赴任、ゲルマニウムを主に各種レアメタルを取り扱っている。委託加工によるゲルマニウム製品の製造、日本技術の中国導入を進めている。

況は相変わらず」として様子見とする大手問屋と「全品種10円ほど下げで対応したい」とするところと対応が別れている。しかし、どちらのポジションにある買い手も「とは言っても、上げて下げても物が無いので出て来ないし、売り込みも来ない」との見方は共通しており、定期物などが入ってくる以外の荷動きは閑散としている。

これまで中国が日本国内のスクラップ相場をも主導して来たが、流れが変わりつつあるようだ。ある扱い筋は「うちはピカ線は中国向けには売っていないが、上海相場の暴落でそれもだいぶ下がってきたと聞いている。雑線は一応18~20万円、込黄銅は29~30万円といったところだが、上海相場はまだ下がっているの、買値をつけるなら2万円下げを見込んでいきたい」としている。

各大手問屋の中心値は、ピカ線買値は42万円、上銅新は40万円、上銅普通は39万円、並銅は33万5,000円、込銅は32万5,000円、下銅は28万円、セパは33万円、コーベルは30万円、黄銅削粉は29万5,000円、並青銅鋳物削粉は31万円どころと変わらず。